

〔玉造小町子壯衰書〕予行路之次、步道之間、徑邊傍有一女人、中頸係一裹、背負一袋、袋容何物、垢膩フカシク之衣、裏容何物、粟豆之餉。カレイヒ

〔古事記傳二十七〕食御糧は、御加禮比伎許志賣須と訓べし、穴穗宮段にも、到山代、荊羽井、食御糧イカレヒ之時とあり、彼を此をもミナシスと訓るもさることなれども、殊に糧字をしも書るは、な字

鏡に、糧加禮比爾雅に、糧糧、和名抄には、四聲字苑云、餉以食遺人也、訓加禮比於久留、俗云加禮比、餉はカレヒオクルと云訓は、さもまた考聲切韻云、糧字亦行所賣米也、又云、儲食也、和名加天と

あり、万葉五に、都禰斯良農道、乃長手袁、久禮久禮等、伊可爾、可由迦牟、可利氏、波奈斯爾、一云、可例比波奈之爾とある、可利氏は、加禮比氏の約りたるなり、禮比利は、加禮比氏とは、加禮比の料と

云意なり、加禮比にする料の米と云ことなす、加氏は加理氏の理を省けるなれば、例常多し、此も同く加禮比氏なり、さて加禮比は乾飯にて、旅には飯を乾て費くなり、其より轉りて必しも乾

たるならざれども、旅にて食ふ飯をば加禮比と云なり、古今集旅部に、但馬國の湯へまかりける時に、二見浦と云所にとまりて、夕ユフ去サリのかれいひたうべけるに云々、伊勢物語に、其澤の邊の

木の陰におりて、かれいひ食けりなどあり、和名抄行旅具に、漢語抄云、樛子、加禮比計今按俗韻云、破子讀和利古、蔣勑切とあり、計は筭なり、さて今世にいは、韻云、樛子中有、障之器也、とあり、計は辨當なり、さて今世にいは、

〔倭名類聚抄十六〕糧音涼、字亦作天、行所賣米也、又儲食也、〔箋注倭名類聚抄四〕靈異記訓釋糧加里氏、萬葉集、可利氏波奈斯爾、按加天即加里天之略語、加里天亦乾飯料之急呼也、中按周禮廩人注云、行道曰糧、僖四年左傳正義云、糧謂米粟、行道之食

也、即此義、說文糧穀也、是似宜在行旅具、此收者恐非是、

〔類聚名義抄七〕糧音良、カテ、糧通、カテ、歠古、糧音良、カテ、〔同食〕饒音隻、乾食カレ、正クラフ、糶